

大成高校での出会いが宝物になる日

密にならない空間づくりが定着したためでしょうか、無意識にも人と接触する機会を避けることが多くなりました。そのため、友達と一緒に大声を出して笑ったり盛り上がったりするようなことができなくなったなぁと感じることがあります。

私たちは、普段、感情をあまり外へ出すことはありません。でも、時として心を動かされる場面に出会うと、期待を超えたプロセスや結末が感情を高め、思わず全身で自分のうれしさや楽しさを表現します。

昨年末、ドイツに勝利したサッカーワールドカップでの試合、この春に開催されたWBCメキシコ戦での逆転サヨナラ勝利など、スポーツの場面における選手の体いっばいに表現された興奮状態のシーンは、私たちに感動を与えてくれました。さらにその感動は、見る者へも伝わり、渋谷のハチ公前交差点では、大騒ぎする若者で溢れかえります。きっと皆さんの身近でも経験できる感情の表れではないかと思います。このような感情を全身で表現する機会は、学校生活の中でも必要であることは言うまでもありません。

ところが、コロナ禍によって、部活動の様に同じ志を持つ仲間と切磋琢磨することでエネルギーを発揮できる機会はあっても、体育祭の様な非日常的な体験の中で生徒がお互いの個性を尊重し合い、エネルギーを発揮させる場面は、とても少なくなっていました。

■令和5年6月1日(木) 天候晴れ 3年ぶりに全校生徒が一堂に会しての体育祭が開催されました。台風接近の予報が大きく外れ、当日は、まさに我々と生徒の思いが伝わるような快晴でした。私は、グラウンドいっばいに響き渡る生徒の歓声がこれほどまでに心地良いものかとあらためてコロナ禍で失っていた生徒のエネルギーに感動しました。また、生徒と同じように体育祭を盛り上げたい、楽しみたいと、多くの時間をかけて準備してきた本校の先生方の熱い思いに、心が震えました。競技が始まると、足の速い人も、遅い人も、運動が苦手な人も、得意な人も、背の高い人も、低い人も、勉強ができる人も、勉強が苦手な人も、それぞれの生徒が持つすべてのエネルギーを仲間のために発揮して、勝負にこだわっていました。

生徒は、勝った喜び、負けた悔しさを全身で表現し、普段はマスクの中にあり、見えなかった仲間の笑顔を見て、その人と出会ったことの大切さに気付き、本校生徒としての誇りを実感できたと確信します。

すべての競技が終わった後、誰もいなくなった本校のグラウンドへ足を運ぶと、生徒と先生が心を共有することで作り出した感動のシーンが蘇り、いつまでも学びの匂いとなって漂っていました。

令和5年6月

